# 環境経営レポート

2025 年度

活動期間 2025 年 4 月～2026 年 3 月

発行日：2026 年 5 月 30 日

株式会社イーシーサービス

# 目　　次

１．事業概要

２．環境経営方針

３．環境経営目標の実績・取組内容とその評価

４．環境経営計画の実績・取組内容とその評価

５．環境関連法規

６．実施体制

７．次年度の環境経営目標

８．次年度の環境経営計画

９．代表者による全体評価と見直しの結果

# 1．事業概要

・組織の概要

| | |
|---|---|
| 事業者及び代表者氏名 | 株式会社イーシーサービス<br>代表取締役　土田　敏之 |
| 所在地<br>事務所及び事業場 | 〒018-0435<br>秋田県にかほ市中三地字中山 28 番地 7 |
| 電話番号<br>ファクス番号<br>E-mail<br>ホームページ | 0184-36-2789<br>0184-36-3050<br>ecs@ecs-nikaho.co.jp<br>https://www.ecservice.jp/ |
| 事業の内容 | 産業廃棄物処分業(詳細別表)<br>産業廃棄物収集運搬業(　〃　　)<br>再生品の販売 |
| 会社設立年月日 | 平成 29 年 12 月 13 日 |
| 資本金 | 2000 万円 |
| 事業年度 | 毎年 1 月～12 月 |
| 会社沿革 | 平成 29 年　株式会社イーシーサービス設立<br>平成 30 年　産業廃棄物収集運搬業許可取得<br>(秋田県他 5 県)<br>令和元年　産業廃棄物処理施設設置許可取得<br>(木くずの破砕施設)<br>令和元年　産業廃棄物処理施設設置許可取得<br>(がれき類の破砕施設)<br>令和元年　産業廃棄物処分業許可取得(破砕)<br>令和元年　解体工事業登録<br>令和 2 年　古物商許可取得<br>令和 4 年　産業廃棄物処理施設設置許可取得<br>(木くずの破砕施設　移動式併用)<br>令和 7 年　エコアクション 21 取得 |
| エコアクション 21<br>対象活動 | 産業廃棄物収集運搬業<br>産業廃棄物処分業（破砕）<br>再生品の販売 |
| エコアクション 21<br>認証・登録の範囲 | 全組織 |

| | |
|---|---|
| 環境管理責任者 | 代表取締役　土田 敏之 |
| 環境管理事務局 | 業務部主任　進藤 牧恵 |
| 従業員数 | 12 名 （令和 8 年 5 月現在） |
| 所有設備 | 木くずの破砕機<br>木くずの破砕機（移動式併用）<br>がれき類の破砕機<br>廃プラスチック類の破砕機<br>廃プラスチック類（発泡スチロール）の溶融機<br>廃プラスチック類の破砕溶融造粒施設 |
| 所有重機等 | 油圧ショベル　HB-200<br>油圧ショベル　PC-120<br>油圧ショベル　SH-200<br>ホイールローダ　WA-100<br>フォークリフト　FH-40 |
| 所有車両 | 大型ダンプ　車両総重量 24,990kg<br>中型脱着装置付コンテナ専用車　車両総重量 7,955kg<br>中型キャブオーバ(移動式クレーン)車両総重量 7,975kg<br>中型キャブオーバ(移動式クレーン)車両総重量 6,075kg<br>営業車　2 台 |

・産業廃棄物処分業の概要

| 産業廃棄物処分業の許可内容 | 秋田県 | 00525204110 号 |
|---|---|---|
| 許可年月日　令和 6 年 12 月 12 日 | 許可の有効期限　令和 11 年 12 月 11 日 | |

| 施設の概要 | 処理能力 | 産業廃棄物の種類 | 施設の許可番号 |
|---|---|---|---|
| 木くずの破砕施設 | 240t/8h | 木くず | 由福環-1267 |
| | | 繊維くず | |
| 木くずの破砕施設<br>移動式併用 | 200t/8h | 木くず | 由福環-1747 |
| がれき類の破砕施設 | 210.4t/8h | がれき類 | 由福環-1268 |
| 廃プラスチック類の<br>破砕施設 | 1.99t/8h | 木くず | 許可対象外 |
| | | 紙くず | |
| | | 繊維くず | |
| | | 廃プラスチック類 | |
| 廃プラスチック類の溶融施設 | 0.4t/8h | 廃プラスチック類 | 許可対象外 |
| 廃プラスチック類の破砕溶融造粒施設 | 0.24t/8h | 廃プラスチック類 | 許可対象外 |

・産業廃棄物収集運搬業の概要

| 産業廃棄物の種類 | 秋田県 | 青森県 | 岩手県 | 山形県 | 宮城県 | 新潟県 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 燃え殻 | － | ○ | － | － | － | － |
| 汚泥 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 廃油 | － | ○ | － | － | － | － |
| 廃プラスチック類 | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| ゴムくず | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 金属くず | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| 鉱さい | － | ○ | － | － | － | － |
| がれき類 | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| ばいじん | － | ○ | － | － | － | － |
| 紙くず | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 木くず | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 繊維くず | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 積替・保管施設 | ○ | － | － | － | － | － |
| 保管上限 | 32.5m$^3$ | － | － | － | － | － |
| 保管高さ | 2.4m | － | － | － | － | － |
| 許可年月日 | R5.10.24 | R6.3.28 | R6.3.11 | R6.3.27 | R6.5.9 | R6.1.29 |
| 許可の有効年月日 | R10.10.23 | R11.3.27 | R11.3.10 | R11.3.11 | R11.5.8 | R11.1.15 |
| 許可番号 | 00515<br>204110 | 00201<br>204110 | 00300<br>204110 | 00609<br>204110 | 00400<br>204110 | 01509<br>204110 |

○：許可あり

●：許可あり（石綿含有産業廃棄物を含む）

－：許可なし

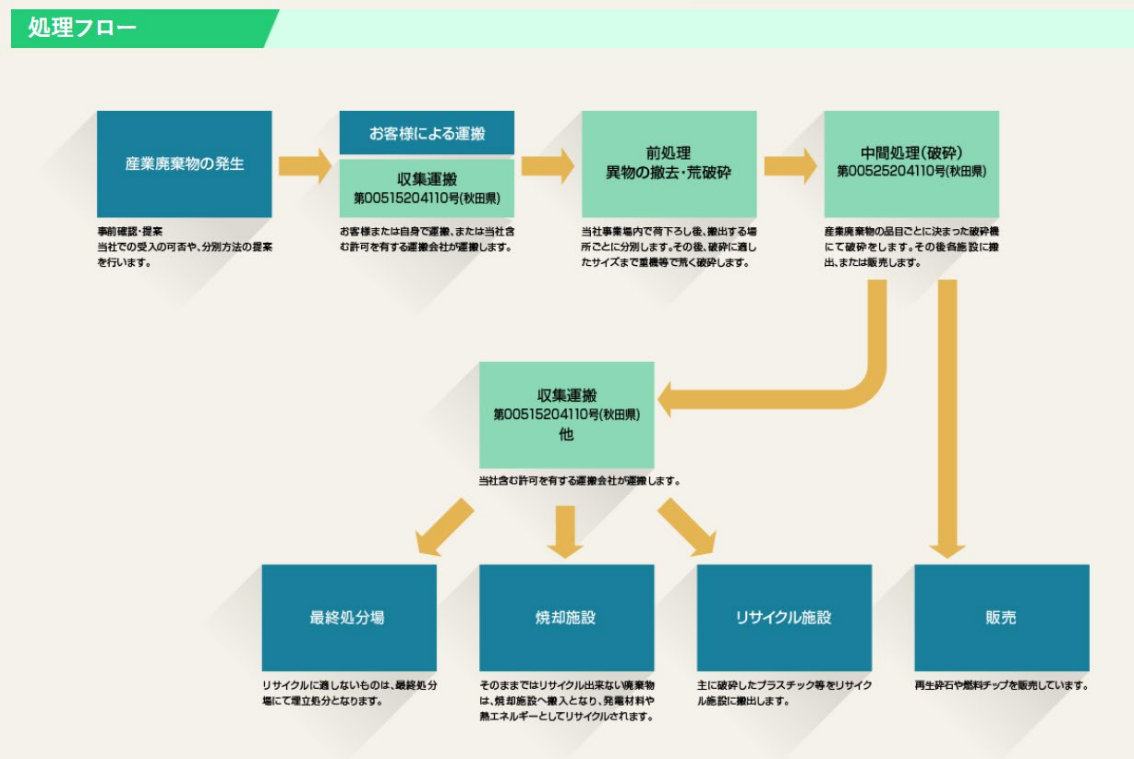
水銀使用製品産業廃棄物または水銀含有ばいじんは除く。

特別管理産業廃棄物であるものを除く。

・事業実績

| | |
|---|---|
| 売上高<br>2025 年度　(2025.1～2025.12) | 145,933 千円 |
| 産業廃棄物受託数量<br>2025 年度　(2025.4～2026.3) | 9,476.26t |
| 収集運搬実績<br>2025 年度　(2025.4～2026.3) | 320.38t |

・産業廃棄物処理フロー図　(弊社 HP より)



2.環境経営方針

株式会社　イーシーサービス

# 環境経営方針

〔基本理念〕

私たちは、企業活動を通じて環境負荷の低減に向けた活動を、積極的かつ継続的に行い、地域の環境保全に積極的に取り組んで行きます。

〔行動指針〕

1．環境関連法規等を遵守します。

2．受託する産業廃棄物の、数量当たりの二酸化炭素の排出量を把握し、単位当たりの削減目標を定めて達成に努めるとともに継続的な改善を図ります。

3．当社での使用物品・事務用品等グリーン購入に努め、循環型社会の実現に貢献いたします。

4．全社員に環境経営方針を周知徹底し、継続的に環境教育を実施することにより環境保全意識の向上に努めます。

5．行政機関や環境団体等に協力をして、地域の環境保全活動に参加していきます。

6．環境に関する情報を公開し、社会とのコミュニケーションを図ります。

この方針を全社員に周知徹底し、環境に関する意識の向上を図るとともに行動指針を具体化するための環境経営目標と活動計画を設定し、定期的な見直しと環境経営システムの継続的改善を図っていきます。

制定日：令和６年８月16日

株式会社　イーシーサービス

代表取締役社長　土田　敏之

# ３．環境経営目標とその実績・取組内容とその評価

**目標と実績について**

基準期間：令和６年４月１日～令和７年３月31日
集計期間：令和７年４月１日～令和８年３月31日

| No. | 環境目標項目 | 前回実績値 | 単位 | 環境目標 | 今回実績値 | 結果 | 評価 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 廃棄物1t当たりの$CO_2$排出量削減 | 22.60 | Kg-$CO_2$/t | 廃棄物1t当たりの排出量1%削減 | 31.88 | 41.1%増加 | × |
| 2 | 電力使用量 | 38,207 | kWh | 使用量2%の減少 | 39,857 | 4.3%増加 | × |
| 3 | ガソリン使用量 | 2,338 | L | 3%削減する | 2,853 | 22.0%増加 | × |
| 4 | 灯油使用量 | 1,181 | L | 2%削減する | 1,375 | 16.4%増加 | × |
| 5 | 軽油使用割合 | 7.81 | L/t | 廃棄物1t当たりの軽油使用量の把握 | 11.18 | 把握 | ○ |
| 6 | LPG使用量 | 10.0 | m3 | 1%削減する | 8.2 | 18.0%減少 | ○ |
| 7 | 一般廃棄物排出量 | 170 | kg | 5%削減する | 130 | 23.5%減少 | ○ |
| 8 | 受託した産業廃棄物のリサイクル率 | 96.04 | % | 1%向上する | 95.80 | 0.24%減少 | × |
| 9 | 上水使用量 | 32.0 | m3 | 1%削減する | 33.0 | 3.1%増加 | × |
| 10 | 事務用品 | 43.52 | % | エコ商品購入率の5%向上 | 7.52 | 36%減少 | × |
| 11 | 車両・設備・機械等 | 検討 | | 購入の際は環境性能面を検討する | 実績無し | 実績無し | ○ |
| 12 | 会社周辺の清掃活動 | 実施 | | 会社周辺の清掃活動の実施 | 実施 | 実施 | ○ |
| 13 | 環境保護団体への協力 | 実施 | | 秋田県産業資源循環協会へ加入 | 実施 | 実施 | ○ |

電力の二酸化炭素排出係数は東北電力の2022年度排出調整後係数（0.471ｋｇ-$CO_2$/Kwh）を使用

各取組内容と評価

**No.1 廃棄物1t当たりの$CO_2$排出量1%削減**

二酸化炭素全量については、目標に対して 41.1%増加と大きく目標に届かなかった。前処理（分別）の必要な廃棄物が、前年比で大幅に増加したことが原因とみられる。破砕施設の特性上、むしろ前年度のような前処理作業がそれ以前の年度よりも通常と考えるべきでここ(2025年度)を基準とするべきと感じた。

**No.2 電力使用量を2%削減する。**

全体としては 4.3%の増加となり未達成も、期間前半は基準年度と電力の使用方法がかなり異なっており期間前半は 53%の増加、使用方法が同じになった期間後半は 25%の削減となっている。廃棄物、特にがれき類の受託量にも左右されるが次年度も同じ目標を掲げて目標を達成できるようにしたい。

**No.3 ガソリン使用量を基準期間より 3%削減する。**

ガソリンの使用量については、22%の増加と目標を達成できなかった。営業車でのみの使用だが営業先によって使用量が大きく変動する。遠方のお客様も増えてきており、車以外の選択肢が殆ど無い地域でもあるが、燃費の良い車両への入れ替えを検討し、引き続き同じ目標を設定し達成に向けて努力していきたい。

**No.4 灯油使用量を基準期間より 2%削減する。**

灯油使用量は 16.4%増加と目標を達成できなかった。節約の意識はあったが、従業員の増加(9→11 人)が影響していると思われる。次年度は従業員 1 人当たりの使用量削減の目標を立てて取り組んでいきたい。

**No.5 廃棄物 1t 当たりの軽油使用量を把握する。**

前々期後半に重機を増車したため、単純に軽油の使用数量では比較が出来ないと思われた。よって、工場については受託した廃棄物 1t 当たりの軽油使用量を把握し、収集運搬車両については平均燃費を把握し次年度の基準値とする。

**No.6 LPG の使用量を 1%削減する。**

LPG の使用量は 18.0%減少と目標を達成した。前年同様、LPG の使用は全て湯沸かし器によるもので、用途は食器等の洗浄が主となる。使用量が少量なためバラつきがあるが、目標設定は変えず次年度以降も評価していきたい。

**No.7 一般廃棄物排出量を 5%削減する。**

23.5%減少と目標を達成した。従業員が 2 名増加しているが一般ごみの量は減っているので各個人の意識が高まっていると思われる。

より精密に排出量を把握するために従業員 1 人当たりの排出量削減に目標を切り替える。

**No.8 受託した産業廃棄物のリサイクル率を 1%向上する。**

0.24%減少と目標には届かなかった。前期同様に元々リサイクル率の高いがれき類を多く受託できたが、それ以上に当社では現状再生困難な枕木・木電柱や、分別の困難な廃プラスチック類の受託量が集計期間内で増加したことが原因と思われる。

(数値が小さいために少量でも影響がある？)

受託する産業廃棄物の内容によって大きく左右される部分もあるが、その中でも目標を達成していくためにはプラスチックの分別に関しては特に力を入れていきたいと考えている。目標設定に関しては、このままとして次年度以降評価していきたい。

**No.9 上水使用量の使用量を 1%削減する。**

3.1%増加し、目標の達成とはならなかった。これは従業員人数の増加(9→11 人)が原因と考えられる。

次年度の目標を従業員 1 人当たりの使用量削減に変更する。

また、2026 年 4 月より地下水の使用不可により工業用上水を導入している。2026 年度の使用量は把握に努める。

**No.10 グリーン購入法適合商品の購入割合 5%減少。**

36%減少と目標には大きく届かなかった。グリーン購入法適合商品を優先する意識はあるが、そもそも選択できないジャンルもあり、そのジャンルは母数に含めない等の精査をする必要があると感じた。それらを踏まえ、次年度も 2024 年度の 5%向上を目指す。

**No.11 車両・設備・機械等の購入時には環境性能面を検討する**

検討段階まで進んだ機械はあったが、本年度は購入を見送った。

次年度以降も引き続き環境性能面を重視して検討をすることとする。

**No.12 会社周辺の清掃活動の実施**

雪解け後に会社周辺道路のゴミ拾いを行った。人数が少なくあまり広範囲は出来ないが、今後も秋の降雪前と春の雪解け後に定期的に取り組んでいきたい。

**No.13 環境保護団体(秋田県産業資源循環協会)への協力**

秋田県産業資源循環協会へ加入申請を行っている状態で、次年度には加入できる見込み。

# ４．環境経営計画と達成状況、取組結果とその評価、次年度の取組内容

◎：よくできた　○：まあまあできた　▲：あまりできなかった　×：できなかった

## 二酸化炭素の削減

### 電力による二酸化炭素削減

| 目標 | 達成状況 | 取組結果とその評価、次年度の取組内容 |
|---|---|---|
| 室温は、暖房期 19℃、冷房期 27℃で管理する。 | ○ | 暑さ寒さの極め時以外にはエアコンの適正使用が出来た。 |
| 定期的にエアコンのフィルターを清掃する。 | ◎ | シーズン終了時に清掃を行うことを意識した。 |
| クールビズ・ウォームビズ | ○ | 特定の場合を除いて達成できた。 |
| LED 管への変更 | ▲ | 一部を変更または新設した。引き続き変更が必要。 |
| 不在時の消灯を心がける | ○ | 出入り口にステッカーを張り意識を強化。 |

### ガソリン、軽油使用量の削減

| 目標 | 達成状況 | 取組結果とその評価、次年度の取組内容 |
|---|---|---|
| エコ運転の教育研修 | ▲ | 機械からの警告通知により過剰な運転を制限している。教育は期間内実施できなかった。 |
| アイドリング停止の徹底 | ◎ | 装置による停止と個人の意識により達成 |
| 運搬効率の向上 | ◎ | 往路だけでなく復路の運搬も計画し、なるべく無駄のない運行経路を計画した。 |
| 低燃費車両への入替 | ◎ | 重機の入替時に、低燃費のものを採用した。 |

### その他化石燃料の削減

| 目標 | 達成状況 | 取組結果とその評価、次年度の取組内容 |
|---|---|---|
| 石油ストーブのエコ運転を心がける | ○ | エコ運転モードを使用している。 |
| 断熱作用のあるフィルムを窓等に貼り付ける | ○ | 冬は窓枠に遮熱シートを貼った。夏の対応が必要。 |
| 不在時の使用を控える | ○ | 出入り口にステッカーを張り意識を強化。 |

## 廃棄物の削減

### 一般廃棄物の削減

| 目標 | 達成状況 | 取組結果とその評価、次年度の取組内容 |
|---|---|---|
| 分別のルールの確立と周知徹底 | ◎ | 種類ごとに置場を作りステッカーにて周知している。 |
| コピー用紙削減 | ○ | 両面コピー・裏紙利用の徹底をしている。 |
| 電子マニフェストの普及推進 | ▲ | 逆にやめる業者も発生している。 |
| 書類の電子化推進 | ▲ | コピーを止めて PDF 化して保存している。(100%ではない) |
| 一般廃棄物の排出量記録 | ◎ | 品目ごとに記録している。 |
| | | |

**産業廃棄物の適正管理**

| 目標 | 達成状況 | 取組結果とその評価、次年度の取組内容 |
|---|---|---|
| 保管場所の管理 | ◎ | 保管数量と保管期間、保管場所の状態を毎日確認している。 |
| マニフェスト・契約書類の管理 | ◎ | 廃棄物の処理期限の遵守や、契約内容の確認を行う。 |
| 委託先の状況確認 | ○ | 定期的に処分委託先に訪問し、処理場の状況や情報交換をしている。 |

**受託・産廃関連**

**リサイクル率の向上**

| 目標 | 達成状況 | 取組結果とその評価、次年度の取組内容 |
|---|---|---|
| 従業員の工場見学 | ◎ | 分別方法や処理方法を見学に行かせたい。(未達成) |
| 簡易なプラスチックの判別機械の導入 | ◎ | 簡易プラスチック判別機械を購入し選別の精度を上げる。 |
| 中間処理の方法の追加（溶融固化、造粒） | ◎ | 減容・再資源化設備を導入予定（発注済） |

**水**

**水道使用量・地下水使用量の削減**

| 目標 | 達成状況 | 取組結果とその評価、次年度の取組内容 |
|---|---|---|
| トイレの流水量の調整 | ▲ | 簡易水洗式トイレがあり、目標の達成状況が分からなかった。<br>要検討項目 |
| 手洗い時の節水 | ◎ | 節水意識向上のステッカーを張り、啓発の意識を持たせた。 |
| スプリンクラーを使用する（地下水） | ◎ | 埃が舞わない程度の散水にはスプリンクラーを使用した。 |

**グリーン購入法適合商品**

**適合商品の購入推進**

| 目標 | 達成状況 | 取組結果とその評価、次年度の取組内容 |
|---|---|---|
| グリーン購入ネットワーク（GPN）認定商品の選定 | ○ | 購入時にはなるべくGPN商品を優先する。 |
| 事務消耗品のエコ商品購入率の把握 | ◎ | 今期間は購入率の把握を行い次年度以降の基準値とする。 |
| 機械等購入時のルール確立 | ○ | 機械購入時の優先順位を決めた。 |

**その他　地域貢献SDGｓ関連**

**適合商品の購入推進**

| 目標 | 達成状況 | 取組結果とその評価、次年度の取組内容 |
|---|---|---|
| 環境保護団体への協力 | ◎ | 環境あきた県民フォーラムへ入会した。 |
| 会社周辺の清掃活動 | ○ | 会社周辺のゴミ拾いを行った。 |

# ５．環境関連法規等の遵守状況の確認

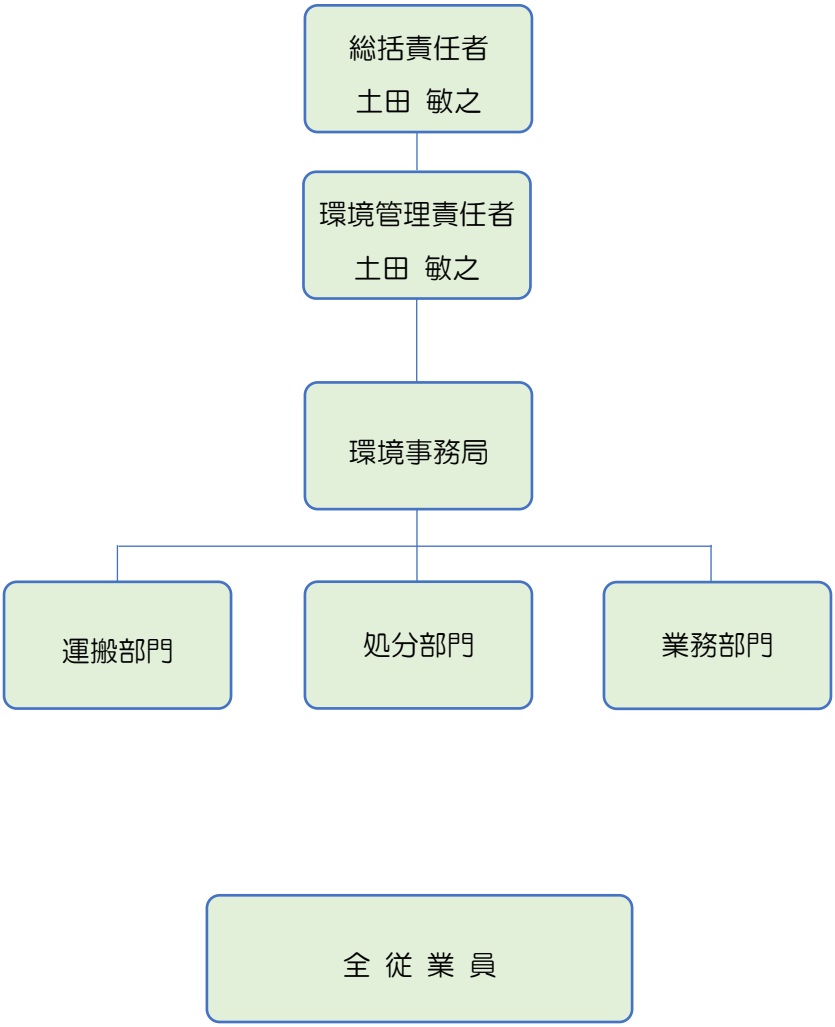
| 適用される法規制 | 適用される事項 | 遵守状況 |
|---|---|---|
| 消防法 | 再生品（燃料チップ）の取り扱い届出 | ○ |
| 廃棄物の処理及び清掃に関する法律 | 主に産業廃棄物の収集運搬業許可及び処分業許可、産業廃棄物処理施設設置許可等 | ○ |
| フロン排出抑制法 | エアコン、重機の簡易点検 | ○ |
| 自動車リサイクル法 | 使用済み自動車の引き渡し | ○ |
| 家電リサイクル法 | 使用済み該当製品の引き渡し | ○ |
| 建設リサイクル法 | 解体工事業 | ○ |
| オフロード法 | フォークリフト、油圧ショベル、ホイールローダ | ○ |

創業以来、苦情や法令違反、訴訟はありません。

事業場入口

## 6．環境経営システムの推進体制

### （1） 体制図



## (2)主な担当役割と責任及び権限

| 役 割 | 責 任 及 び 権 限 |
|---|---|
| 代表者 | 環境経営に関する統括責任<br>経営における課題とチャンスの整理・明確化<br>実施体制の構築（人、設備、時間、費用等）<br>**環境経営方針**の策定及び見直し<br>**環境経営目標・環境経営計画書**の承認<br>全体の評価と見直しの実施<br>**環境経営レポート**の承認 |
| 環境管理責任者 | **環境経営システム**の構築<br>**環境関連法規等の取りまとめ表**の承認<br>**環境経営目標・環境経営計画書**の承認<br>**環境経営計画**の取組結果の確認、報告<br>**環境経営レポート**の報告 |
| 環境事務局 | 環境管理責任者の補佐、環境・安全衛生委員会の運営<br>環境への負荷の自己チェック、環境への取組の自己チェックの実施<br>**環境関連法規等取りまとめ表**の作成及び遵守評価<br>**環境経営目標・環境経営計画書**の作成<br>**環境経営計画**の実績集計及び環境経営レポート作成、公開<br>環境関連の外部コミュニケーション窓口及び<br>内部コミュニケーションの実施<br>緊急事態訓練の実施<br>環境教育訓練の実施 |
| 運搬<br>処分　部門長<br>業務 | **環境経営システム**の実施及び環境経営方針の周知<br>従業員に対する教育訓練の実施<br>**環境経営計画**の実施及び達成状況の報告<br>特定された項目の手順書の作成及び達成状況の報告 |
| 全従業員 | **環境経営方針**の理解<br>積極的な環境経営計画への参加 |

# ７．次年度以降の環境経営目標

## 次年度の環境経営計画

基準期間：令和６年４月１日～令和７年３月31日　（電力使用量のみ令和７年４月１日～令和８年３月31日）

集計期間：令和８年４月１日～令和９年３月31日

| No. | 環境目標項目 | 基準期間実績値 | 単位 | 環境目標 | 基準期間目標値 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 二酸化炭素全量（原単位） | 22.60 | Kg-$CO_2$/t | 受託した廃棄物1t当たりの$CO_2$削減量を1%削減する | 22.37 |
| 2 | 電力使用量 | 38,207 | kWh | 3%削減する | 37,060 |
| 3 | ガソリン使用量 | 2,338 | L | 3%削減する | 2,267 |
| 4 | 灯油使用量 | 13.1(9人) | L/人 | 2%削減する | 12.8 |
| 5 | 軽油使用量（中間処理・原単位） | 4.77 | L/t | 受託した廃棄物1t当たりの軽油使用量を3%削減する | 4.62 |
| 6 | 軽油使用量（収集運搬・燃費） | 14.18 | Km/L | 燃費を5%向上する | 14.89 |
| 7 | LPG使用量 | 10.0 | m3 | 2%削減する | 9.8 |
| 8 | 一般廃棄物排出量（人数当たり） | 18.9(9人) | Kg/人 | 5%削減する | 18.0 |
| 9 | 受託した産業廃棄物のリサイクル率 | 96.04 | % | 1%向上する | 97.04 |
| 10 | 上水使用量 | 32 | m3 | 1%削減する | 31.7 |
| 11 | 工業用水使用量 | 実績無し | m3 | 数値の把握 | 把握 |
| 12 | 事務用品 | 43.52 | % | エコ商品購入率の5%向上 | 48.52 |
| 13 | 車両・設備・機械等 | 検討 | | 購入の際は環境性能面を検討する | 検討 |
| 14 | 会社周辺の清掃活動 | 年２回 | | 会社周辺の清掃活動の実施 | 年２回 |

## 環境経営計画の中長期目標

集計期間：令和７年４月１日～令和10年３月31日

| No. | 環境目標項目 | 基準期間実績値 | 単位 | 中長期環境目標 | 基準期間実績値 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 二酸化炭素全量（原単位） | 22.37 | Kg-$CO_2$/t | 受託した廃棄物1t当たりの$CO_2$削減量を実績値より3%削減する | 21.70 |
| 2 | 電力使用量 | 39,857 | kWh | 実績値より3%削減する。 | 38,661 |
| 3 | ガソリン使用量 | 2,338 | L | 実績値より10%削減する | 2,104 |
| 4 | 灯油使用量 | 131.2 | L/人 | 実績値より5%削減する。 | 127.0 |
| 5 | 軽油使用量（工場）（原単位） | 128.8 | L/t | 受託した廃棄物1t当たりの軽油使用量を実績値より3%削減する。 | 125.0 |
| 6 | 軽油使用量（運搬）（燃費） | 3.58 | km/L | 収集運搬車両の燃費を実績値より10%向上する。 | 3.94 |
| 7 | LPG使用量 | 10.0 | m3 | 実績値より3%削減する。 | 9.7 |
| 8 | 一般廃棄物排出量 | 18.9 | Kg/人 | 実績値より10%削減する。 | 17.0 |
| 9 | 受託した産業廃棄物のリサイクル率 | 96.04 | % | 実績値より3%向上させる。 | 99.04 |
| 10 | 上水使用量 | 32.0 | m3 | 実績値より5%削減する。 | 31.04 |
| 11 | 工業用水使用量 | - | m3 | 2026年度より稼働。実績値を把握する | 次年度に設定 |
| 12 | 事務用品 | 43.52 | % | エコ商品購入率の10%向上 | 53.52 |
| 13 | 車両・設備・機械等 | 検討 | | 購入の際は環境性能面を検討する | 検討 |
| 14 | 会社周辺の清掃活動 | 2 | 回/年 | 会社周辺の清掃活動の実施 | 年２回 |

2024年度の$CO_2$排出量：240,027 Kg-$CO_2$

2024年度の産業廃棄物受託量：10,406t　同期間収集運搬量　1,103.95t

電力の二酸化炭素排出係数は東北電力の2022年度排出調整後係数（0.471ｋｇ-$CO_2$/Kwh）を使用

## 次年度の環境経営計画の目標の見直しについて

No.5 および 6 については、軽油の使用量を中間処理と収集運搬に分けてそれぞれの部門で「原単位の軽油使用量の削減」または「運搬車車両の燃費向上」を目標とし、取組みの成果を評価することとした。

No.4 および 8 については、従業員人数が増加し、更に増員を見込んでいるため一人当たりの使用量・排出量で評価した方が妥当と判断し目標を変更した。

No.11 についてはこれまで使用していた地下水が設備の老朽化により使用できなくなったために、工業用水を使用することを計画し 2026 年 4 月より稼働を開始する。
実績データが全く無いため、2026 年度はデータの把握のみとし、次年度以降に目標を定めることとする。

以上に伴い、中長期目標も変更する。

# 8．次年度の環境経営計画

## 二酸化炭素の削減

### 電力による二酸化炭素削減

| 目標 | 備考 |
|---|---|
| 室温は、暖房期 19℃、冷房期 27℃で管理する。 | 継続 |
| 定期的にエアコンのフィルターを清掃する。 | 〃 |
| クールビズ・ウォームビズ | 〃 |
| LED 管への変更 | 〃 |
| 不在時の消灯を心がける | 〃 |

### ガソリン、軽油使用量の削減

| 目標 | 備考 |
|---|---|
| エコ運転の教育研修 | 継続 |
| アイドリング停止の徹底 | 〃 |
| 運搬効率の向上 | 〃 |
| 低燃費車両への入替 | 〃 |

### その他化石燃料の削減

| 目標 | 備考 |
|---|---|
| 石油ストーブのエコ運転を心がける | 継続 |
| 断熱作用のあるフィルムを窓等に貼り付ける | 〃 |
| 不在時の使用を控える | 〃 |

## 廃棄物の削減

### 一般廃棄物の削減

| 目標 | 備考 |
|---|---|
| 分別のルールの確立と周知徹底 | 継続 |
| コピー用紙削減 | 〃 |
| 電子マニフェストの普及推進 | 〃 |
| 書類の電子化推進 | 〃 |
| 一般廃棄物の排出量記録 | 〃 |

### 産業廃棄物の適正管理

| 目標 | 備考 |
|---|---|
| 保管場所の管理 | 継続 |
| マニフェスト・契約書類の管理 | 〃 |
| 委託先の状況確認 | 〃 |

受託・産廃関連

**リサイクル率の向上**

| 目標 | 備考 |
|---|---|
| 従業員の工場見学 | 継続 |
| プラスチックの判別機械の導入 | 〃 |
| 中間処理の方法の追加（溶融固化、造粒） | 〃 |

水

**上水道・工業用水使用量の削減**

| 目標 | 備考 |
|---|---|
| 手洗い時の節水 | 継続 |
| スプリンクラーを使用する（工業用水） | 〃 |
| ホースの日常点検（工業用水） | 〃 |

グリーン購入法適合商品

**適合商品の購入推進**

| 目標 | 備考 |
|---|---|
| グリーン購入ネットワーク（GPN）認定商品の選定 | 継続 |
| 事務消耗品のエコ商品購入率の把握 | 〃 |
| 機械等購入時のルール確立 | 〃 |

その他　地域貢献 SDGｓ関連

**適合商品の購入推進**

| 目標 | 備考 |
|---|---|
| 環境保護団体への協力 | 継続 |
| 会社周辺の清掃活動　（降雪前、雪解け後の 2 回を目標） | 〃 |

# ９．代表者による全体評価と見直しの結果

2024 年度にエコアクション 21 を取得し、本年度は 2 期目となりました。

本年度は機械の入替えや受託する産業廃棄物の傾向変化等が大きく、また、従業員人数も若干ですが増えており、環境に関する目標の設定や取り組みの成果を実感することはなかなか難しいと感じた 1 年でした。

中間処理前の分別作業で人力では困難な作業が増え、重機に頼らざるを得ない場面が多く、結果中間処理に伴う軽油使用量は大きく増加しました。
逆に収集運搬に関しては県外の運搬業務が減少したために軽油使用量も大きく減少しました。
また、プラスチックのリサイクル率を上げるために導入した減容機についても、処理前の人力による分別が必須となり、人員増に伴う環境負荷は一部を除いて増加しました。

以上の原因から、目標を達成できない項目が多数あり、次年度以降も設備を改良の予定はあるので、経営成績や従業員人数に結びつくものに関してはなるべく t(kg)当たり、1 人当たり、燃費等で表していくこととします。